■「長野県南佐久郡町村会、長野県南佐久郡町村議会、長野県南佐久郡土木協議会」からの提言書

（平成25年7月16日）

自012-1

平成 25 年 7 月 16 日

国土交通大臣　太田昭宏 様

中部横断自動車道の
早期実現に関する提言書

中部横断自動車道計画路線図

長 野 県 南 佐 久 郡

自012-2

平素、中部横断自動車道の建設促進につきましては、特段のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

待望の中部横断自動車道の小諸・佐久ＪＣＴから佐久南ＩＣ間の一部区間供用開始から早くも２年以上が経過し、既に地域住民には無くてはならない生活路線となっています。加えて緊急時の物流や人員の輸送に大きな成果を発揮するものと期待されています。

元来、高速道路は日本の経済を支える物流の要であるとともに、人々の暮らしを支える生命線であり、東日本大震災においても鉄道や港湾施設が壊滅的な被害を受ける中、高速道路が早期に復旧したことにより、緊急輸送の基軸として多大な効果を発揮し、真に被災地の皆様の生命線となりました。

この災害を教訓として、改めて災害に強い国土づくりが急務であり、特に日本海と太平洋を結ぶネットワーク強化が叫ばれる中、本路線は正に物流の要としての役割を果たすものです。

今後発生が危惧される東海地震等による重大災

■「長野県南佐久郡町村会、長野県南佐久郡町村議会、長野県南佐久郡土木協議会」からの提言書

（平成25年7月16日）

自012-3

害にあっても、広域的防災体制の強化に必要な緊急輸送路としての役割を担うとともに、医療過疎地域への救急搬送手段の提供など多様な住民福祉を提供する機能も兼ね備える、沿線住民にとっても生活に密接した「命の道」であります。

また、中部横断自動車道は、静岡、山梨、長野、新潟の４県を結び、東名、新東名、中央、関越、北陸の５つの高速道路と接続し「関東大環状連携軸」を形成する路線となり、物流体系の再編、交流圏の拡大、広域的観光ゾーンの形成などを促進し、交流人口の創出に大きく貢献する「真に必要な道路」であり、その整備効果は計り知れないものがあります。

高速道路はネットワーク化されることにより、本来持つ機能を何倍にも高め、住民生活の利便性の向上に役立てることとなりますが、中部横断自動車道においては、基本計画区間が残されており、真の効果を最大限に発揮するには、ミッシングリンクの解消が急務であります。

特に当南佐久地域においては、南北に走る国道

- 2 -

自012-4

141 号線に代わる路線は無く、ひとたび災害や事故等により不通となった場合には、住民生活に大きな支障が生じる状態であります。生鮮野菜の産地である当地域においてはその場合の被害は特に甚大で、産業・防災・観光の各方面からも早期開通を切望するものであり、地域住民の悲願である中部横断自動車道の早期全線整備が図られますよう、特段のご高配を賜りたくお願い申し上げます。

記

１　基本計画区間である（仮称）八千穂ＩＣ～山梨県（仮称）長坂ＪＣＴ間について、整備計画区間の格上げを早期に実現し、高速道路のネットワーク化が図られますようお力添えをお願いいたします。

２　佐久南ＩＣ～（仮称）八千穂ＩＣ間の早期完成・供用開始に向け、特段の予算措置が継続されますようお力添えをお願いいたします。

- 3 -

■「長野県南佐久郡町村会、長野県南佐久郡町村議会、長野県南佐久郡土木協議会」からの提言書

（平成25年7月16日）

自012-5

長野県南佐久郡町村会長

川上村長　藤原　忠彦

長野県南佐久郡町村議会議長会長

小海町議会議長　鷹野　野洲年

長野県南佐久郡土木協議会長

佐久穂町長　佐々木　定男

中部横断自動車道長野県南佐久郡沿線町村

南佐久郡町村会

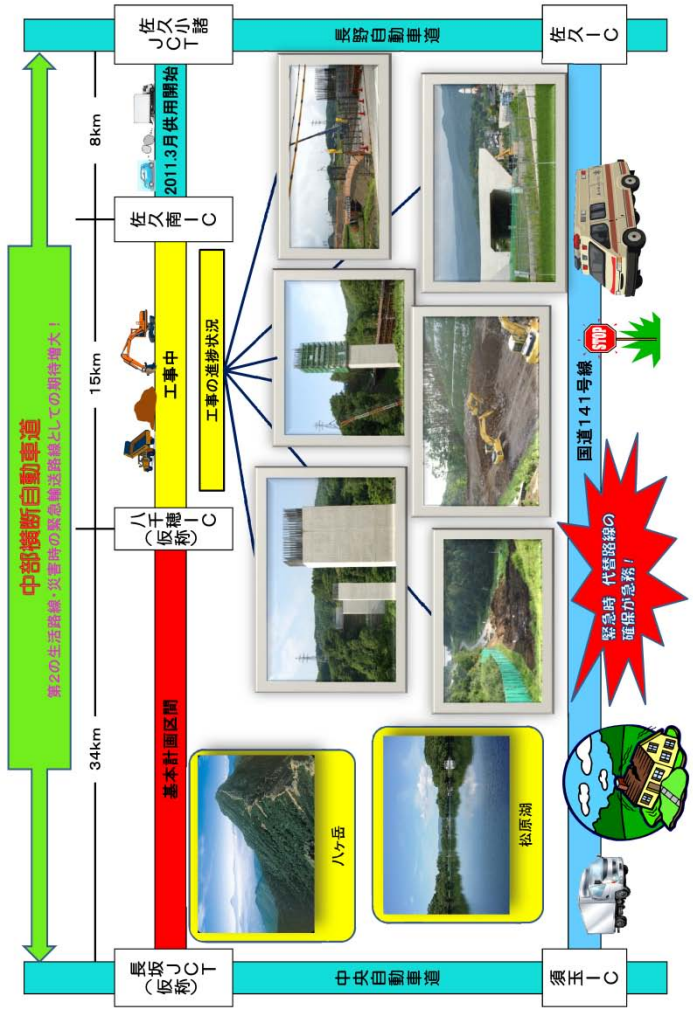
小海町長	新井　寿一
佐久穂町長	佐々木　定男
川上村長	藤原　忠彦
南牧村長	菊池　幸彦
南相木村長	菊池　毅彦
北相木村長	井出　髙明

南佐久郡町村議会議長会

小海町議会議長	鷹野　野洲年
佐久穂町議会議長	小林　守正
川上村議会議長	由井　美成
南牧村議会議長	大村　公之助
南相木村議会議長	中島　常夫
北相木村議会議長	木次　孝茂

- 4 -

自012-6



■「佐久市」からの提言書

（平成25年9月4日）

自013-1

平成２５年９月４日

関東整備局長
深　澤　淳　志　様

中部横断自動車道の早期実現に関する

提　　言　　書

湯川橋梁から浅間山を望む

長野県 佐久市長 柳田清二

自013-2

提　　言　　書

平成２５年９月４日

関東地方整備局長
深　澤　淳　志　様

佐久市長　　柳　田　清　二

平素、中部横断自動車道の建設促進につきましては、特段のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

平成２３年３月に開通いたしました中部横断自動車道 佐久・小諸ジャンクションから、佐久南インターチェンジの区間は、中部横断自動車道全線開通に向けた大きな前進であり、開通により国道１４１号の交通渋滞の緩和や地域間移動の時間短縮などの面において、その整備効果が発揮されているところであります。中部横断自動車道の早期全線開通は、長野県及び山梨県沿線地域の観光、産業など全ての面においての可能性をより一層高めるものになるものと実感しております。

■「佐久市」からの提言書

（平成25年9月4日）

自013-3

さて、東日本大震災では、鉄道や港湾施設が壊滅的な被害を受ける中で、高速道路が早期に回復したことにより、多大な効果を発揮し、緊急輸送の基軸となりました。

この震災を教訓として、改めて災害に強い国土づくり、特に日本海と太平洋を結ぶネットワーク強化の必要性が再認識されました。

中部横断自動車道は、東南海地震等による重大な災害の発生が危惧される中で、広域的防災体制を強化するとともに、緊急輸送路としての役割を担うばかりでなく、救急医療など住民福祉の多様な機能も兼ね備える、沿線住民の生活に密接した「命の道」であります。

また、中部横断自動車道の全線整備は、静岡、山梨、長野、新潟の４県を結ぶとともに、東名、新東名、中央、関越、北陸の５つの高速道路と接続し「関東大環状連携軸」を形成する路線となり、物流体系の再編、交流圏の拡大、広域的観光ゾーンの形成などを促進し、交流人口の創出に大きく貢献する「真に必要な道路」であり、その整備効果は計り知れないものがあります。

しかしながら、中部横断自動車道には基本計画区間が残されており、高速道路の効果を最大限に発揮するには、ミッシングリンクの解消が急務であると考えます。

自013-4

つきましては、地元住民の声をお汲み取りいただき、中部横断自動車道建設の円滑な事業の推進、早期完成に向けて下記事項につきまして、特段のご高配を賜りますようお願い申し上げます。

記

１．基本計画区間である（仮称）八千穂インターチェンジ～山梨県（仮称）長坂ジャンクション間について、整備計画区間への格上げを早期に実現し、ネットワーク化が図られるよう、お力添えをお願い致します。

２．佐久南インターチェンジ～（仮称）八千穂インターチェンジ間について、早期完成に向け、特段の予算措置が講じられるよう、お力添えをお願い致します。

■「中部日本横断自動車道建設促進期成同盟会」からの要望書

（平成25年10月8日）

自014-1

要　望　書

平成２５年１０月８日

中部日本横断自動車道
建設促進期成同盟会

自014-2

中部日本横断自動車道の早期完成について

「中部日本横断自動車道」は、日本列島の中央部において太平洋と日本海を直結する高速道路で、新東名高速道路の清水連絡路、中部横断自動車道及び上信越自動車道を連結することにより構成されています。

新東名の清水連絡路につきましては、清水ＪＣＴ～新清水ＪＣＴ間（Ｌ＝４．５ｋｍ）が昨年４月に供用されました。

中部横断自動車道につきましては、静岡市～甲斐市間（Ｌ＝７５km）、及び佐久穂町～佐久市間（Ｌ＝２３km）が整備計画区間に、北杜市～佐久穂町間（Ｌ＝３４km）が基本計画区間に、それぞれ位置づけられており、現在までに増穂ＩＣ～双葉ＪＣＴ間（Ｌ＝１６km）、佐久南ＩＣ～佐久小諸ＪＣＴ間（Ｌ＝８．５km）が供用されております。

また、上信越自動車道につきましては、信濃町ＩＣ～上越ＪＣＴ間（Ｌ＝３８ｋｍ）について、昨年４月より４車線化事業に着手されました。

先の東日本大震災では、高速道路が、救助や緊急輸送の基軸として、多大な効果を発揮することが改めて認識されたところであり、東海地震・東南海地震や富士山噴火などによる重大な災害の発生が危惧されている昨今において、中部日本横断自動車道は、広域的防災体制を強化するとともに、緊急輸送路としての役割を担うなど、防災、住民の安全安心に不可欠な「命の道」であります。

社会資本整備審議会道路分科会国土幹線道路部会の中間答申においても、高速道路のネットワーク強化のあり方として、太平洋側と日本海側を繋ぐ横断軸の強化が必要とされております。

中部日本横断自動車道は、静岡・山梨・長野・新潟の４県を結び、東名・新東名・中央・関越・北陸の５つの高速道路を有機的に連結することで、臨海工業地帯と内陸工業地帯との緊密な連携、物流体系の再編、交流圏の拡大、広域的観光ゾーンの形成などを促進し、沿線地域の産業・経済・観光・文化等に大きな活力を与えるなど、その整備効果は計り知れないものがあり、関係県民は大きな期待を寄せ、等しくその早期実現を念願しているところであります。

つきましては、中部日本横断自動車道の重要性について御理解いただき、次の事項について特段の御配慮を賜りますようお願い申し上げます。

■「中部日本横断自動車道建設促進期成同盟会」からの要望書

（平成25年10月8日）

自014-3

記

一、 静岡・山梨・長野・新潟の4県を結ぶ「中部日本横断自動車道」について、全線を早期に完成させること。

一、 中部横断自動車道については、基本計画区間（北杜市 ～ 佐久穂町間）の全区間一体での整備計画区間への格上げを早期に実現するとともに、事業中区間（新清水JCT～増穂IC間、八千穂IC（仮称）～ 佐久南IC間）の建設を促進すること。

特に直轄高速区間（富沢IC（仮称）～六郷IC間（仮称）、八千穂IC（仮称）～佐久南IC間）については、早期に完成させること。

一、 上信越自動車道の信濃町IC ～ 上越JCT間については、4車線化事業を早期に完成させること。

一、 高速自動車国道は、国の根幹的な施設であり、今後とも国及び地域の社会・経済活動の発展を支えるため、国が責任を持って整備計画9,428kmを早期に整備し、法定路線である11,520kmの整備を着実に推進すること。

一、 未事業化区間の整備を促進するため、早急に事業化のスキームを確立するとともに、計画段階評価など必要な手続きを速やかに進め完了すること。

一、 高速自動車国道をはじめとする高規格幹線道路網及び関連道路の整備を促進するため、道路事業全体の予算を確保すること。

自014-4

中部日本横断自動車道
建設促進期成同盟会

会長	山梨県知事	横内　正明
副会長	新潟県知事	泉田　裕彦
副会長	長野県知事	阿部　守一
副会長	静岡県知事	川勝　平太
副会長	新潟県議会議長	中野　洸
副会長	長野県議会議長	本郷　一彦
副会長	山梨県議会議長	棚本　邦由
副会長	静岡県議会議長	中谷　多加二

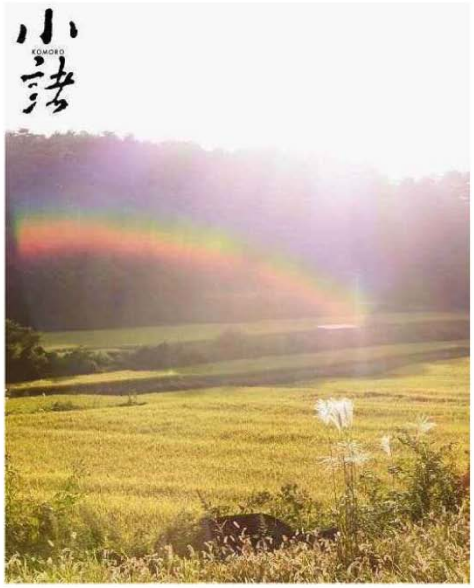
■「小諸市、小諸女性みちしるべの会」からの提言（平成25年10月29日）

自015-1

平成25年10月29日

様

中部横断自動車道及び国道改良に関する提言



秋の御牧ケ原台地

自015-2

中部横断自動車道及び国道改良要望について

平素から、小諸市の道路行政の推進に特段のご高配を賜り、厚く感謝申し上げます。

また、中部横断自動車道の建設及び国道１４１号の四車線化につきまして整備の推進をいただき重ねて御礼申し上げます。

さて、中部横断自動車は、日本海及び太平洋の臨海部と内陸部との連携を深め、新東名高速道路及び、中央、上信越の各自動車道とを結ぶことにより、生活圏域を拡大し、観光誘致にも取り組むことができ、大きな期待と一日も早い完成が切望されています。

また、当市からこの中部横断自動車道に通じる国道１８号、国道１４１号は、長野新幹線佐久平へも通じており、小諸市と他地域とを結ぶ正に幹線中の幹線道路であります。

つきましては、これらの路線の果たす役割と重要性をご賢察いただき、円滑な事業の推進、さらには早期完成に向け、下記事項につきまして特段のご高配を賜りますようお願い申し上げます。

■「小諸市、小諸女性みちしるべの会」からの提言（平成25年10月29日）

自015-3

記

1　中部横断自動車道で、唯一基本計画である八千穂 IC（仮称）～山梨県長坂 JCT（仮称）間について、早期に整備計画へ格上げしていただきますようお願いします。

2　国道１４１号小諸佐久間の四車化の早期完成をお願いします。

3　国道１８号の歩道新設について、継続的に改良工事をお願いします。

4　国道１４１号の歩道新設について、継続的に改良工事をお願いします。

平成２５年１０月２９日

小諸市長　　栁　田　剛　彦

小諸女性みちしるべの会
代　　表　[redacted]

■「北杜市」からの要望書（平成25年11月12日）

自016-1

中部横断自動車道（長坂～八千穂）の

早期着手に関する要望書

平成二十五年十一月十二日

北杜市

自016-2

道路局長におかれましては、日頃、国政推進のためにご尽力されておりますこと、深甚なる敬意と感謝を申し上げます。

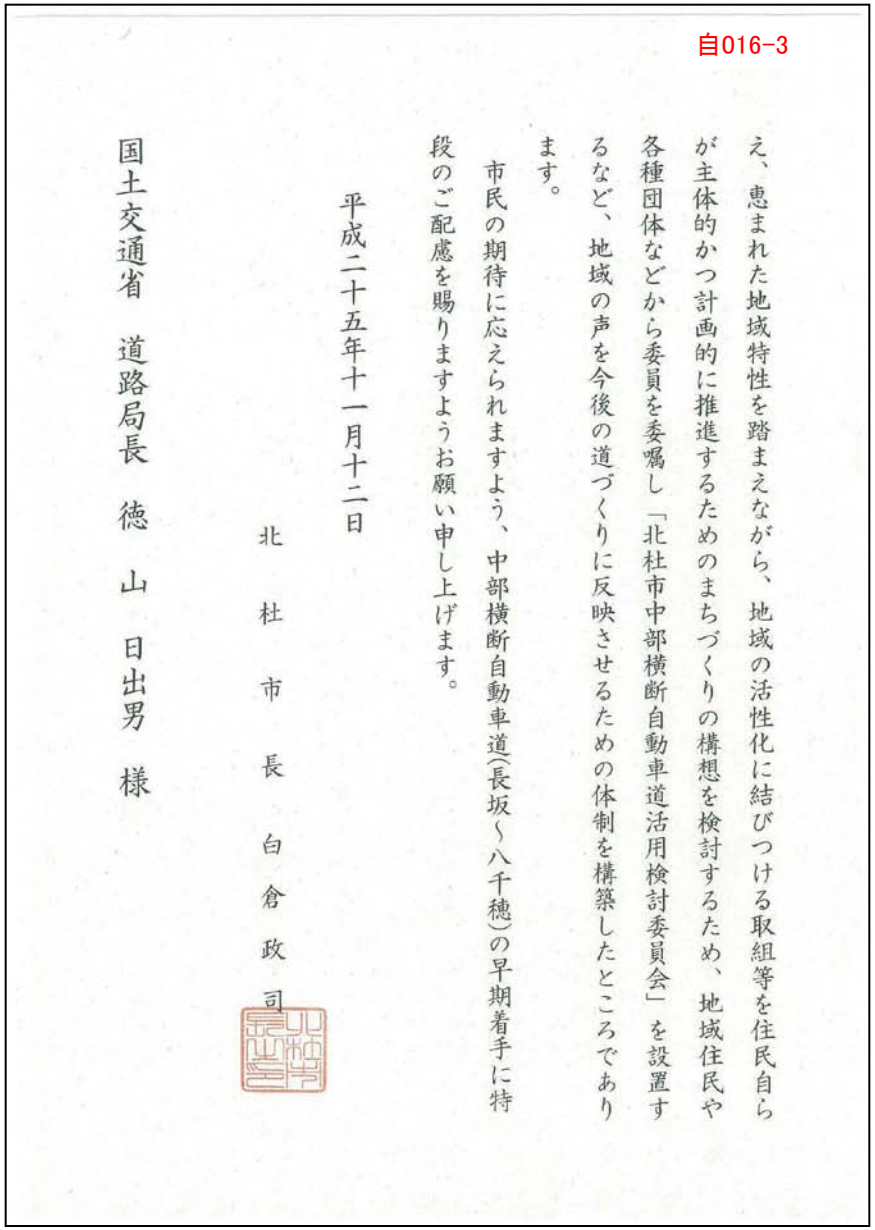
平素から本市の行政推進につきましては、格別の御高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、静岡県静岡市と長野県小諸市に至る中部横断自動車道は、日本の大幹線として、また災害時の緊急輸送路や医療施設への緊急搬送など「命の道」として重要な機能を果たすとともに、地域間の連携の強化、物流の効率化による経済活動の活発化など、地域社会の発展に大きく貢献するものであり、北杜市の将来にとっても大きな財産となり得るものして多くの市民から期待されているところであります。

現在、中部横断自動車道は、静岡・長野方面から順次建設が進み供用も開始されるなどする中、長坂から八千穂間については、計画段階評価の施行中であり、地元住民一同は、一日も早い整備計画への格上げを期待しているところであります。

北杜市では、国及び県のご協力をいただきながら、中部横断自動車道の整備を見据

■「北杜市」からの要望書（平成25年11月12日）



自016-3

え、恵まれた地域特性を踏まえながら、地域の活性化に結びつける取組等を住民自らが主体的かつ計画的に推進するためのまちづくりの構想を検討するため、地域住民や各種団体などから委員を委嘱し「北杜市中部横断自動車道活用検討委員会」を設置するなど、地域の声を今後の道づくりに反映させるための体制を構築したところであります。

市民の期待に応えられますよう、中部横断自動車道（長坂～八千穂）の早期着手に特段のご配慮を賜りますようお願い申し上げます。

平成二十五年十一月十二日

北杜市長　白倉政司

国土交通省　道路局長　徳山日出男　様

■「山梨県」からの提案・要望（平成25年11月26日）

自017-1

平 成 ２ ６ 年 度

国の施策及び予算に関する提案・要望

山　　梨　　県

自017-2

山梨県政の推進につきましては、平素から格別の御指導、御高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

本県では、「第二期チャレンジ山梨行動計画」に基づき、県民一人ひとりが、生活の豊かさや心の豊かさを実感できる「暮らしやすさ日本一」の実現に向け、市町村や民間、あるいは大学などの教育・研究機関とも連携・協働し、各種施策の進展に全力で取り組んでおります。

さて、我が国及び本県の経済状況は緩やかに回復しつつあるものの、本県の雇用面については有効求人倍率が全国平均を下回るなど依然として厳しい状況が続いており、また、明年４月の消費税及び地方消費税の税率引き上げに伴う景気への影響が懸念されています。

こうした中にあって、本県の財政状況も厳しさを増してきており、県税収入の大幅な増加は期待できないことから、引き続き実効性のある施策・事業を確実に推進していくためには、本県独自の創意・工夫はもとより、地域の実情に即した制度の創設や財源措置など、国の御理解と御支援が不可欠であります。

本提案・要望書に取り上げました項目は、本県にとって重要度が高くかつ迅速な対応が必要な施策・課題であります。

つきましては、国における平成２６年度の予算編成や施策の決定に当たり、これら事項の実現に特段の御配慮を賜りますようお願い申し上げます。

平成２５年１１月２６日

殿

山梨県知事 横内正明

■「山梨県」からの提案・要望（平成25年11月26日）

自017-3

平成２６年度国の施策及び予算に関する提案・要望

要　望　項　目

1　高速自動車国道及び地域高規格道路等の整備促進について　1

2　公共土木施設の老朽化対策について　3

自017-4

高速自動車国道及び地域高規格道路等の整備促進について

［国土交通省］

【提案・要望の要旨】

高速自動車国道は、国土政策として国が責任をもって着実に整備を進めること
地域高規格道路は、計画的な整備が図れるよう特段の配慮を行うこと

【現状と課題】

○　高速自動車国道及び地域高規格道路等は、多軸型国土の形成と物流ネットワークの複線化を進め、地域の個性ある発展を促すとともに、今後予想される大規模災害時には復旧・復興支援のための「命の道」となるため積極的な整備が求められています。

○　中部横断自動車道は、東名高速道路、新東名高速道路、中央自動車道及び上信越自動車道を相互に連結し、全国的な高速交通ネットワークを構築する上で極めて重要な路線であり、高速道路のミッシングリンクの解消に向け、国が責任をもって着実に整備を進めていくことが必要です。

○　中央自動車道の上野原ＩＣ以東は、都心から放射状に伸びた高速道路ネットワークの中で唯一６車線化されておらず、小仏トンネル付近で発生する慢性的な渋滞が、首都圏のみならず山梨県・長野県・岐阜県などに経済的、時間的損失を与えており、早期の改築事業着手が望まれています。

○　本県では、これらの高速自動車国道の効果を最大限に活用するための地域高規格道路として「新山梨環状道路」及び「西関東連絡道路」を計画し、整備を進めています。

○　また、東海地域や南関東地域との連携・交流を促進するため、新東名高速道路への連絡強化が必要であり、東富士五湖道路の須走ＩＣと新東名高速道路を結ぶ自動車専用道路の整備が求められています。

○　更に、平成２３年３月に部分供用した国道１３９号都留バイパスでは、富士吉田方面において依然渋滞が発生しており、未整備区間の早期事業化が求められています。

【具体的提案・要望内容】

１　中部横断自動車道の整備促進
- **事業中区間（新清水ＪＣＴ～増穂ＩＣ）の平成２９年度までの完成**
- **基本計画区間（長坂～八千穂）のルートの確定と長野県を含め全区間一体での整備計画区間への早期格上げ**

２　中央自動車道の整備
- **上野原ＩＣ以東の改築事業の早期着手**

３　スマートＩＣ設置の促進

４　地域高規格道路等の整備促進
- **新山梨環状道路の北部区間の平成２６年度新規事業着手及び東部区間（県施工）の整備推進と事業区間の延伸**
- **西関東連絡道路の整備推進**
- **東富士五湖道路の須走ＩＣ～新東名高速道路間の国道１３８号のバイパスの整備促進**
- **甲府富士北麓連絡道路の計画路線への早期格上げ**

５　直轄国道の整備促進
- **国道１３９号都留バイパス、富士吉田方面への延伸事業の早期着手**

1

■「山梨県」からの提案・要望（平成25年11月26日）

自017-5

高速自動車国道及び地域高規格道路等の整備促進　概要図

2

自017-6

公共土木施設の老朽化対策について

［農林水産省・林野庁・国土交通省］

【提案・要望の要旨】

公共土木施設の老朽化対策に関する十分な予算を確保・配分するとともに、点検補修技術の向上を促進する措置を講じること

【現状と課題】

○　昨年１２月に起こった中央道・笹子トンネルの天井板落下事故の教訓も踏まえ、公共土木施設の老朽化対策の加速が我が国の主要なテーマとなっており、本県においても、道路をはじめ、河川砂防、土地改良や治山林道施設などの公共土木施設の老朽化が急速に進み、その対策に最優先で取り組んでいかなければなりません。

○　国においては、平成２４年度の補正予算で土木施設の点検費用を補助の対象とし、平成２５年度当初予算において旧社会資本整備交付金を再編して新たに「防災・安全交付金」を創設するなどの取り組みを進めるとともに、道路法や河川法を改正し、予防保全的観点から適切に施設の点検や維持管理を行うべきことを明確化しました。

○　しかしながら、地方の財政は依然として大変厳しい状況にあるとともに、技術者不足等により、十分な対応をとることが困難な状況となっています。

○　今後も引き続き計画的、継続的な「施設の点検」や長寿命化などの「戦略的維持管理、施設更新」が行えるよう、継続した国の支援が必要となっています。

【具体的提案・要望内容】

1　防災・安全交付金、農山漁村地域整備交付金等について十分な財源の確保と継続した支援
2　交付金等の対象事業や採択要件については、地域の実情を十分踏まえ柔軟に対応し、地方にとってさらに使い勝手がよい制度の確立
3　老朽化対策を一層推進するための点検補修技術の向上

3

■「山梨県」からの提案・要望（平成25年11月26日）

自017-7

トンネル　損傷状況

覆工（漏水、遊離石灰）

覆工（漏水）

覆工（漏水、遊離石灰）

非常用設備（漏水）

河川管理施設等の老朽化状況

減速機腐食状況

開閉装置腐食・発錆状

下水道施設等の老朽化状況

汚泥かき寄せ機（駆動部）

汚泥かき寄せ機（ｽﾌﾟﾛｹｯﾄ）

ポンプ設備

4

■「山梨県高速道路整備促進期成同盟会」からの要望書

（平成25年11月28日）

自018-1

平成25年度

中部横断自動車道の早期実現と
中央自動車道の改築促進に関する要望書

山梨県高速道路整備促進期成同盟会
山梨県スマート・追加ＩＣ整備促進協議会
中部横断自動車道整備促進山梨県峡北地域連絡協議会
甲西道路・中部横断自動車道（増穂・双葉）建設促進連絡協議会
中部横断自動車道（富沢・増穂）建設促進連絡協議会

自018-2

中部横断自動車道の早期実現と
中央自動車道の改築促進について

山梨県内の高速道路の整備促進につきましては、平素から格別の御高配を賜り、熱く御礼申し上げます。

道路は、県民の社会経済活動を支える、欠かすことのできない社会資本であります。

なかでも、高速道路は、活動圏域の拡大、地域間の連携の強化、物流の効率化による経済活動の活発化など、地域の自立的な発展を支える根幹的な社会資本として、地域社会に大きく貢献するものであると同時に、災害時の物資輸送や医療施設への救急搬送にも、大きな効果を発揮する「命の道」として県民の期待は大きいものであります。

更には、今年、国土幹線道路部会の中で高速道路のネットワーク強化のあり方として示された、太平洋側と日本海側をつなぐ横断軸の強化や、ボトルネック箇所への集中的対策や、簡易インターチェンジの増設等は、山梨県にとっても喫緊の課題であり、高速道路整備の重要性を改めて示すものであります。

中部横断自動車道は、太平洋と日本海を結び、新たな高速道路網を形成することにより、静岡・山梨・長野・新潟各県の交流・連携を活発化し、沿線地域の産業、経済、観光、文化等の振興・発展に寄与するものであり、増穂以南においては中部横断沿線地域活性化協議会を中心に、沿線地域の活性化を推進する活動が行われており、また、長坂以北においては北杜市中部横断自動車道活用検討委員会で、中部横断自動車道を踏まえた、まちづくりの構想を検討しております。このような地域の努力が実を結ぶためにも、早期の全線開通が望まれています。

また、我が国の三大都市圏を結ぶ中央自動車道の上野原インターチェンジ以東で、依然として発生している慢性的な交通渋滞を解消し、国土の大動脈としての交通機能を十分に確保する必要があります。

一方、高速道路のうち、開通から３０年以上が経過した道路は約４割にも上り、今後、本格的な大規模更新時代を迎えようとしている中、国民が安全に安心して利用できる高速道路とするためには、これまでの維持管理に加え、構造物の更新や大規模な修繕を計画的に進めることが必要であります。

つきましては、中部横断自動車道の全線開通と中央自動車道の機能強化を図るため、次の事項について特段の御配慮を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

■「山梨県高速道路整備促進期成同盟会」からの要望書

（平成25年11月28日）

自018-3

要　望　事　項

一、中部横断自動車道の事業中区間である増穂以南について、平成２９年度までの全線開通を確実なものとするため、所要の予算を確保すること。

一、中部横断自動車道の北杜市から佐久穂町間の基本計画区間について、全線一体として早期に整備計画区間に格上げすること。

一、中央自動車道の上野原インターチェンジ以東の渋滞解消を図る改築事業に早期に着手すること。

一、高速道路利用者の利便性の向上と地域の活性化、物流の効率化等に寄与するスマートインターチェンジの整備を促進すること。

一、県境付近における渋滞を解消するため、東富士五湖道路の料金を低減するとともに、新東名高速道路まで延伸すること。

一、高速自動車国道をはじめとする幹線道路網及びスマートインターチェンジ等の整備を促進するとともに、建設及び維持管理・更新に必要な予算を確保すること。

自018-4

平成２５年１１月２８日

山梨県高速道路整備促進期成同盟会

会　長　山梨県知事　横内　正明

山梨県スマート・追加ＩＣ整備促進協議会

会　長　山梨県知事　横内　正明

中部横断自動車道整備促進山梨県峡北地域連絡協議会

会　長　北杜市長　白倉　政司

甲西道路・中部横断自動車道（増穂・双葉）建設促進連絡協議会

会　長　富士川町長　志村　学

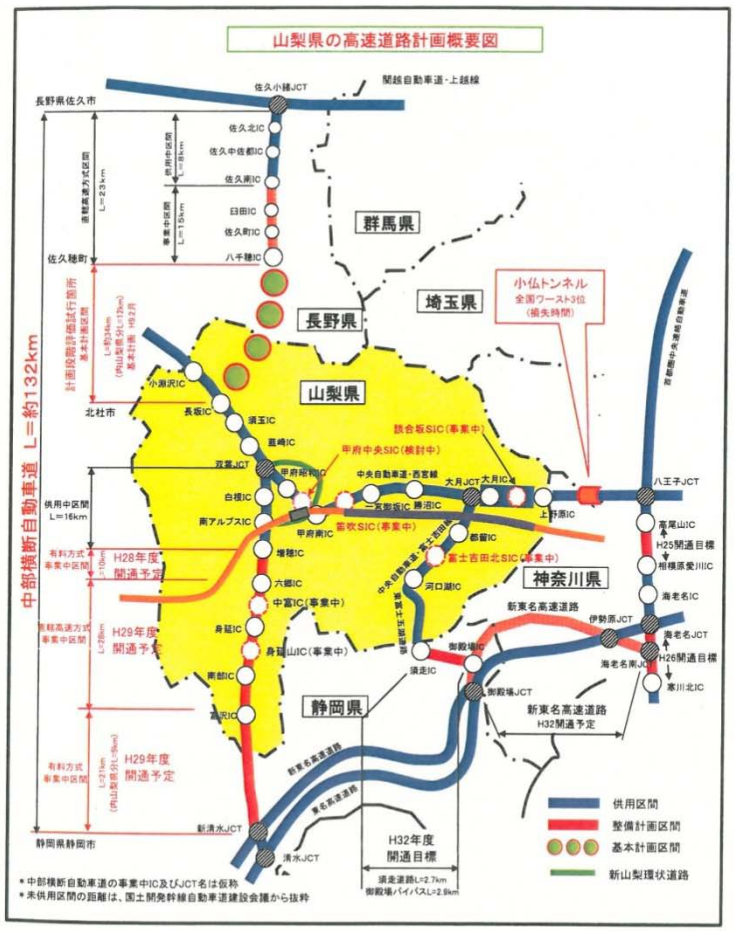
中部横断自動車道（富沢・増穂）建設促進連絡協議会

会　長　身延町長　望月　仁司

■「山梨県高速道路整備促進期成同盟会」からの要望書

（平成25年11月28日）

自018-5



■「山梨県」からの要望書（平成25年12月12日）

自019-1

平成25年度

要　望　書

山　梨　県

自019-2

道路整備予算の確保について（山梨県）

道路は私たちの暮らしや社会・経済活動を支える社会資本の基盤であるが、近年道路関係予算の削減が続いている。今後もこのような予算の確保が難しい状況が続くこととなると、国力の維持、発展に大きな影響を与えることとなる。

本県においても、地域の活性化や経済発展を図ることはもとより、大規模災害発生時の「命の道」を完成させるため、道路整備を確実に進めていく必要がある。

ついては、道路整備推進のため、次の事項について強く要望する。

1．東海地震等の大規模災害時に、緊急輸送路となる中部横断自動車道の整備促進
　①新清水ＪＣＴ～増穂ＩＣ間の平成２９年度開通のための予算確保
　②長坂ＪＣＴ～八千穂ＩＣ間の整備計画区間への早期格上げ

2．中央自動車道小仏トンネル付近など上野原インターチェンジ以東の渋滞解消を図る改築事業の早期着手

3．山梨・静岡県境の東富士五湖道路から新東名高速道路間の国道138号須走道路と御殿場バイパスの整備推進

4．新山梨環状道路・北部区間及び東部区間の未事業化区間の平成２６年度新規事業化

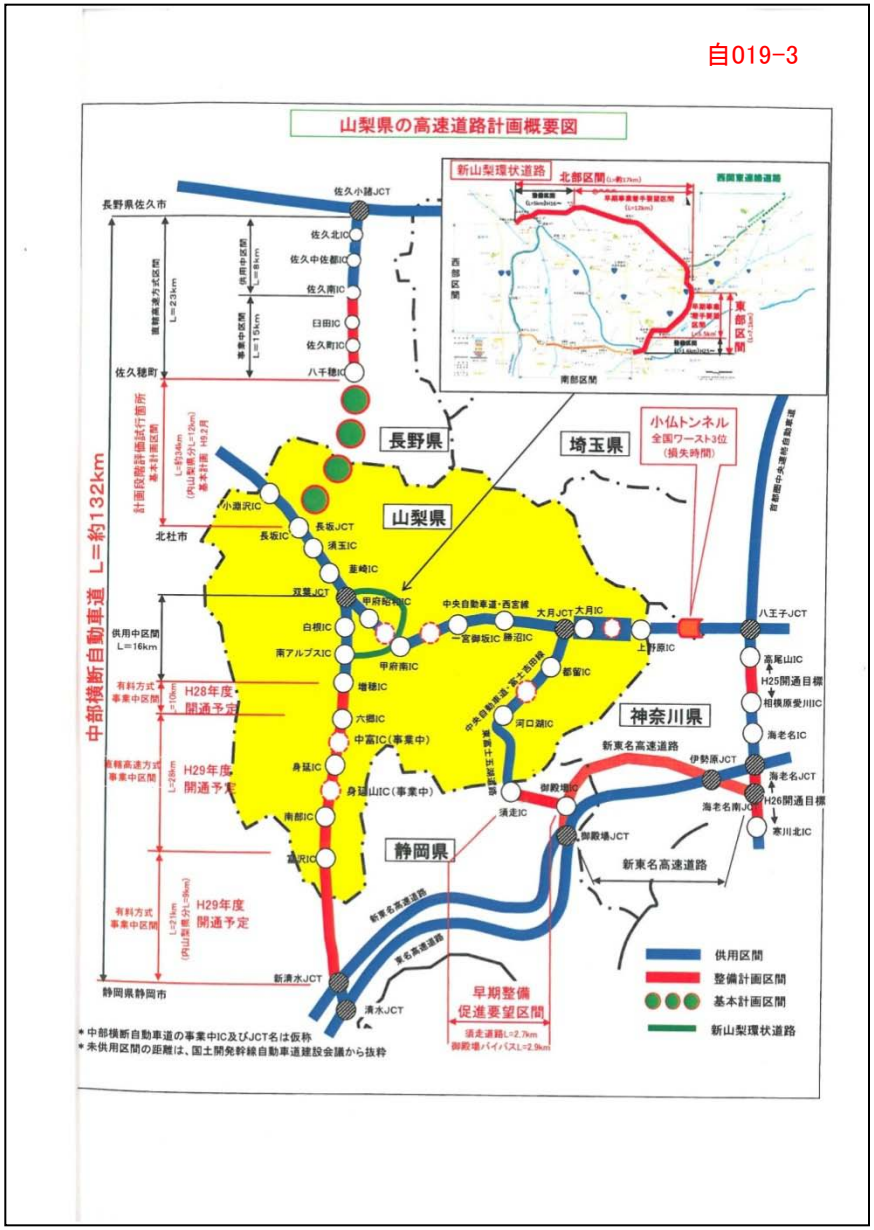
5．必要とする道路整備が着実に実施できるよう、平成２６年度予算編成において、本年度を上回る道路整備予算を確保すること

平成２５年１２月１２日

山梨県知事　横内　正明

■「山梨県」からの要望書（平成25年12月12日）

自019-3



■「北杜市」からの文書（平成26年4月23日）

自020-1

北杜道河第126号
平成26年4月23日

国土交通省関東地方整備局
局　長　　深澤　淳志　様

山梨県北杜市長　白倉　政司

中部横断自動車道を見据えた北杜市まちづくりビジョンの策定について

春光うららかな季節、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

本市におきましては、中部横断自動車道の整備を見据え、開通による沿線地域の将来像を明らかにして、恵まれた本市の地域特性を踏まえながら、地域活性化に結びつける取り組み・方策等を、地域住民自らが主体的かつ計画的に推進するため、市民の声の受け皿として学識経験者等からなる「中部横断自動車道活用検討委員会」を昨年７月に設置し、それらの指針となるビジョンの策定を進めてまいりました。

この度、ビジョン案に関するパブリックコメントの実施、多岐に渡る諸団体からの活用検討委員会における意見陳述など、多くの市民の声を反映した「中部横断自動車道を見据えた北杜市まちづくりビジョン」の策定を完成させることができました。

策定にあたり、多大なるご支援を貴省からいただき、深く感謝申し上げます。

また、今後、本市におきましては、引き続き「中部横断自動車道を見据えた北杜市まちづくりビジョン」を達成するための道路プランについて広く市民の意見を聞く仕組みの「北杜市中部横断自動車道活用検討委員会」を活用し、策定を進めてまいります。

つきましては、ビジョン策定時と同様に多大なご支援をいただけるよう、お願い申しあげます。

自020-2

中部横断自動車道を見据えた
北杜市まちづくりビジョン

平成２６年３月

北杜市中部横断自動車道活用検討委員会

■「北杜市」からの文書（平成26年4月23日）

自020-3

北杜道河第１２６号
平成 26 年 4 月 23 日

国土交通省関東地方整備局
道路部長　後藤　貞二　様

山梨県北杜市長　白倉　政司

中部横断自動車道を見据えた北杜市まちづくりビジョンの策定について

春光うららかな季節、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

本市におきましては、中部横断自動車道の整備を見据え、開通による沿線地域の将来像を明らかにして、恵まれた本市の地域特性を踏まえながら、地域活性化に結びつける取り組み・方策等を、地域住民自らが主体的かつ計画的に推進するため、市民の声の受け皿として学識経験者等からなる「中部横断自動車道活用検討委員会」を昨年７月に設置し、それらの指針となるビジョンの策定を進めてまいりました。

この度、ビジョン案に関するパブリックコメントの実施、多岐に渡る諸団体からの活用検討委員会における意見陳述など、多くの市民の声を反映した「中部横断自動車道を見据えた北杜市まちづくりビジョン」の策定を完成させることができました。

策定にあたり、多大なるご支援を貴省からいただき、深く感謝申し上げます。

また、今後、本市におきましては、引き続き「中部横断自動車道を見据えた北杜市まちづくりビジョン」を達成するための道路プランについて広く市民の意見を聞く仕組みの「北杜市中部横断自動車道活用検討委員会」を活用し、策定を進めてまいります。

つきましては、ビジョン策定時と同様に多大なご支援をいただけるよう、お願い申しあげます。

自020-4

中部横断自動車道を見据えた
北杜市まちづくりビジョン

平成２６年３月

北杜市中部横断自動車道活用検討委員会

■「北杜市」からの文書（平成26年4月23日）

自020-5

北杜道河第126号
平成26年4月23日

国土交通省関東地方整備局
甲府河川国道事務所
所長　田中　克直　様

山梨県北杜市長　白倉　政司

中部横断自動車道を見据えた北杜市まちづくりビジョンの策定について

春光うららかな季節、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

本市におきましては、中部横断自動車道の整備を見据え、開通による沿線地域の将来像を明らかにして、恵まれた本市の地域特性を踏まえながら、地域活性化に結びつける取り組み・方策等を、地域住民自らが主体的かつ計画的に推進するため、市民の声の受け皿として学識経験者等からなる「中部横断自動車道活用検討委員会」を昨年７月に設置し、それらの指針となるビジョンの策定を進めてまいりました。

この度、ビジョン案に関するパブリックコメントの実施、多岐に渡る諸団体からの活用検討委員会における意見陳述など、多くの市民の声を反映した「中部横断自動車道を見据えた北杜市まちづくりビジョン」の策定を完成させることができました。

策定にあたり、多大なるご支援を貴省からいただき、深く感謝申し上げます。

また、今後、本市におきましては、引き続き「中部横断自動車道を見据えた北杜市まちづくりビジョン」を達成するための道路プランについて広く市民の意見を聞く仕組みの「北杜市中部横断自動車道活用検討委員会」を活用し、策定を進めてまいります。

つきましては、ビジョン策定時と同様に多大なご支援をいただけるよう、お願い申しあげます。

自020-6

中部横断自動車道を見据えた
北杜市まちづくりビジョン

平成２６年３月

北杜市中部横断自動車道活用検討委員会

■「山梨県」からの申入書（平成26年5月15日）

自021-1

高道推第７３号
平成２６年５月１５日

国土交通省甲府河川国道事務所長　殿
北杜市建設部長　殿

山梨県県土整備部
高速道路推進課長

申入書について（送付）

このことについて、中部横断自動車道八ヶ岳南麓新ルート沿線住民の会運営委員会から提出があったのでその写しを送付します。
また、その内容について対応方よろしくお取り計らい願います。

県土整備部高速道路推進課
電話０５５－２２３－１６９０

自021-2

２０１４年５月１４日

山梨県県土整備部高速道路推進課
課長　乙守和人殿

中部横断自動車道八ヶ岳南麓新ルート沿線住民の会
運営委員会

申　入　書

山梨県は、昨年の７月１６日以降５回にわたって北杜市で開催されている「北杜市中部横断自動車道活用検討委員会」（以下、活用検討委員会とする）に関係行政機関の委員として参加し、中部横断自動車道を見据えた北杜市まちづくりビジョンの作成に協力してきました。しかし委員会の審議の過程で、中部横断道の新ルートＢ案を前提とする議論の進め方に対し、委員の方から「順番が逆ではないか」「Ａ案、Ｂ案ということでまちづくりへの意見を言ってきた認識はない」等の意見や疑問が続出し、活用検討委員会の根本的な在り方が問われる事態になっています。また本年１月に実施した北杜市のパブリックコメントでも、新ルートに反対の意見や活用検討委員会の進め方についての疑問が総数の８割以上を占めるまでになっています。

八ヶ岳南麓の自然環境・美しい景観は山梨県、北杜市が日本全国に誇れる貴重な財産です。それを守り育んでいくことが北杜市、さらには山梨県の発展につながっていくという点については、新ルートに反対する住民も推進を主張する住民も異論がないところです。活用検討委員会においても、八ケ岳南麓の自然や景観を守っていくことを優先することが確認され、それに甚大な影響を与える新ルートＢ案の見直しを検討したほうがいいという意見まで出されていることは、活用検討委員会の審議に参加している山梨県としても重大に受け止める必要があります。

活用検討委員会の事務局は国交省から「Ｂルートが有力」との説明を受け、それに基づいて議論を進めてきましたが、この９ヵ月間にわたる議論の経過から明らかになったことは、「Ｂルート」を前提にした議論を今後も続けていった場合、委員や住民から出されたさまざまな意見を切り捨てる結果になり、非常に限定された、不十分なまちづくりプランしか作成できないということです。そのような事態に到らないようにすることは行政の責任です。またパブリックコメントで住民から意見を聞きながら、その８割を「所掌外」の意見ということで活用検討委員会の議論に反映させないというような対応は行政として不誠実であり、無責任とも言えます。山梨県、北杜市には現在、活用検討委員会の審議のあり方の見直しと、住民の声をまちづくりに真に生かしていくことのできる然るべき方策を立てることが求められていると言えます。

山梨県
高速道路推進課
26.5.14
高速第 73 号

■「山梨県」からの申入書（平成26年5月15日）

自021-3

以上のことから、次の３点について申し入れを行いますので、ご検討をお願いいたします。

１．新ルート「Ｂ案」を前提とした北杜市中部横断自動車道活用検討委員会の運営を一時中断するように北杜市を指導すること。

２．パブリックコメントに寄せられた意見のうち、「所掌外」として扱われた８割以上の意見につき、適正な取り扱いをするように北杜市を指導すること。

３．活用検討委員会で道路プランを議論する前に、八ヶ岳南麓を横断する新ルート「Ｂ案」を前提とすることのない真摯な、幅広い住民協議の場を設定するように国交省と北杜市へ提言・指導すること。

以上につき、５月２８日までに回答されるようお願いいたします。